

ルネサンスの思想家たち

2019 年本試

問 1 マキャヴェリの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 国家は、統治者、防衛者、生産者の三つの階級がそれぞれの能力を発揮し、統治者のもとで全体としての秩序と調和が保たれることで成り立つ。
- ② 政治は、人間の現実のありようを踏まえた統治の技術であり、君主は、強さと賢さをもって国家統治を果たすべきである。
- ③ 王権は、神から授けられた絶対的なものとして正当化されるため、人民は君主に服従すべきであり、逆らうことは許されない。
- ④ 人々は、権利を自由に行使することから生じる戦争状態を脱するため、自らの権利を放棄し、強大な統治者へ譲渡しなければならない。

問 2 宗教改革期に活躍した人物についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① ルターは、『キリスト教綱要』のなかで、誰が永遠の生命を与えられる者で、誰が永遠に断罪を受ける者であるかは、神の意志によってあらかじめ定められているとした。
- ② ウィクリフは、ルターやカルヴァンらの宗教改革に影響を受けて、聖書に忠実であろうとする立場から、ローマ・カトリック教会の教義や教皇のもつ権力を批判した。
- ③ エラスムスは、『愚神礼讃(痴愚神礼讃)』のなかで、教会や聖職者の墮落を風刺したが、自由意志を否定するルターとは対立し、激しさを増していった宗教改革と距離をおいた。
- ④ イグナティウス・ロヨラは、プロテスタンティズムの勢力に対抗するため、イエズス会を創設し、教皇などの特権的な身分を認めない立場から、教会の改革を行った。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	②	3
第 4 問	問 2	30	③	3

2018 年追試

問 1 ルネサンス期に活躍した人物についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

29

- ① 壁画「最後の晩餐」などで知られるミケランジェロは、絵画や音楽といった分野だけでなく、医学や力学などの自然科学の分野でも業績を残し、万能人(普遍人)として活躍した。
- ② ダンテは、『神曲』のなかで、人間が神の愛によって祝福された存在であることを強調し、人間の魂を、欲望や罪、苦悩などとは無縁の美しいものとして描き出した。
- ③ ボッティチェリは、『デカメロン』のなかで、自由奔放に快樂を追い求める男女の性愛を生き生きと描き出すことで、人間の感情や欲望の解放を表現しようとした。
- ④ 壁画「アテネの学堂」でラファエロは、イデア論で知られるプラトンが天を指し、現実世界を重視したアリストテレスが地を示す姿を描くなど、古代哲学を象徴的に表現した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	④	3

2017 年本試

問 5 富の格差をはじめとする様々な不平等を思想家たちは問題にしてきた。次のア～ウは、そうした思想家たちの説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 33

ア 敬虔^{けいけん}なキリスト教徒にして人文主義者(ヒューマニスト)である立場から、金銭や富が人間よりも大切にされる社会を批判し、貨幣や私有財産のない理想社会を描く作品を発表した。

イ 男性優位の文化・習慣が女性に特定の生き方を強いていることを明らかにし、「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」と主張して、以後のフェミニズム運動に影響を与えた。

ウ 自由競争によって生じる所得や地位の不平等は、社会の最も不遇な人々の境遇の改善につながる限りで認められるとする格差原理を主張して、公正としての正義を構想した。

- | | | |
|------------|-------------|--------|
| ① ア トマス・モア | イ ボーヴォワール | ウ ロールズ |
| ② ア トマス・モア | イ ボーヴォワール | ウ サンデル |
| ③ ア トマス・モア | イ シモーヌ・ヴェイユ | ウ ロールズ |
| ④ ア トマス・モア | イ シモーヌ・ヴェイユ | ウ サンデル |
| ⑤ ア サン=シモン | イ ボーヴォワール | ウ ロールズ |
| ⑥ ア サン=シモン | イ ボーヴォワール | ウ サンデル |
| ⑦ ア サン=シモン | イ シモーヌ・ヴェイユ | ウ ロールズ |
| ⑧ ア サン=シモン | イ シモーヌ・ヴェイユ | ウ サンデル |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	①	3

2017 年追試

問 1 人間の本質について考察した思想家の説明として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

29

- ① ピコ・デラ・ミランドラは、『人間の尊厳について』のなかで，自らの生き方を選ぶことができるという自由意志に人間の尊厳をみた。
- ② ロックは、『人間知性論』のなかで，人間が感覚的経験に囚^{とら}われずに無限の想像力を働かせることに，人間知性の価値を見いだした。
- ③ マキャヴェリは、『君主論』のなかで，利己的な性格をもつという人間の本性を洞察し，君主が独裁にはしることに警告を発した。
- ④ ルソーは、『人間不平等起源論』のなかで，人間は本来対立を好む性向をもつので，社会的な教育が大事であると主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	①	2

2016 年本試

問 1 ルネサンス期の文学・芸術についての説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

29

- ① ボッカチオは，快樂を求める人々の姿を描いた『カンツォニエーレ』を著し，人間解放の精神を表現した。
- ② レオナルド・ダ・ヴィンチは，解剖学などを踏まえた絵画制作を通じ，人間や世界の新たな表現法を提示した。
- ③ アルベルティは，建築を始め様々な分野で活躍し，自らの意欲次第で何事をも成し遂げる人間像を示した。
- ④ ダンテは，罪に苦悩する人間の魂の浄化を描いた『神曲』を著し，人文主義的な機運の先駆けをなした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	①	2

2015 年本試

問 9 様々な思想家が責任や責務について論じてきた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① マキアヴェリは、政治を道徳や宗教から分離し、あるべき理想ではなく、ありのままの現実を起点とする思考こそ、為政者の責務であると論じた。
- ② ウェーバーは、職業召命説に依拠し、神の道具として与えられた職業に励むことが、神を讃^{たた}える我々の責務であると主張した。
- ③ エラスムスは、熱狂的な宗教改革を批判し、博愛精神に基づいて教会の現状を維持することが、神に対する我々の責任であると説いた。
- ④ ガリレイは、天動説に対する教会の弾圧に抵抗し、宗教裁判においても自説を曲げないことで、真理に対する科学者の責任を立証した。

問 1 ルネサンス期の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

29

- ① ルネサンス期には、古代ギリシア・ローマの文芸を再生し、古典を学び直そうという運動が広く展開した。古典を模範とすることで、人間性を解放し、新たな人間像を探究する人間中心の文化が花開いた。
- ② ルネサンス期には、古典研究を通して、キリスト教世界の根源にある古代の異教的世界を再興しようという考えが現れた。自然を再発見することで、古代の神々を中心とする神話的世界観が復活した。
- ③ ルネサンス期には、美術の世界でも、遠近法が確立し、人体の写実的な描写が始まるなどの革新がみられた。「最後の審判」など、絵画や彫刻作品を数多く制作したミケランジェロは、建築の分野でも活躍した。
- ④ ルネサンス期には、人間の本性はあらかじめ定まっていけないという考えが現れた。ピコ・デラ・ミランドラは、人間は自由意志に基づいて自分の本性を形成する存在であるとし、そこに人間の尊厳の根拠をみた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
------	----	------	----	----

第 1 問	問 9	30	①	2
第 4 問	問 1	29	②	3

2014 年本試

問 1 レオナルド・ダ・ヴィンチに代表される、ルネサンス時代の理想の人間像として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 道具を使ってものを作り出していく工作人
- ② 天地自然と一体となって生きていく真人
- ③ あらゆる分野で才能を発揮する万能人
- ④ 主体的に生きて自ら価値を創造する超人

問 2 トマス・モアは、架空の島を舞台とした『ユートピア』を著したが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 国家の干渉を批判し、個人が自らの利益を追求することが社会全体の繁栄につながると主張している。
- ② 現実に対応できない統治者を批判し、国家の統治のためには道徳に反した行いも許されると主張している。
- ③ 土地所有者が農地の囲い込みをしている社会を批判し、私有財産制のない社会のあり方を示している。
- ④ 互いに争う人々を批判し、『旧約聖書』の怪物に譬^{たと}えられる強大な権力をもった国家による支配を正当なものとして示している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	③	2
第 4 問	問 2	30	③	2

2013 年追試

問 1 16 世紀はじめ，力量ある人物が権力を巧みに操って，道徳にとらわれず国家を統治すべきであると説いた思想家として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① ブルーノ
- ② トマス・モア
- ③ ボシュエ
- ④ マキャヴェリ

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	30	④	2

2011 年本試

問 1 文章中の 22 ・ 23 に入る語句として正しいものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

寛容が一定の意味内容をもつようになる端緒は，教会の権威に囚われずにギリシア・ローマの古典的文芸を研究する 22 が生まれたルネサンスにある。例えば，ボッカチオは『デカメロン』の「三つの指輪」の物語で諸宗教間の寛容を説いた，また，聖書研究に基づいてキリスト教本来の精神を捉えようとした 23 は，『愚神礼賛』で，戦争や蓄財に熱中する教会の不寛容と墮落を批判した。こうした批判を背景にして，社会の諸階層を広く巻き込むかたちで宗教改革は展開された。

- | | | | |
|----|---|--------|--------|
| 22 | { | ① 合理主義 | ② 福音主義 |
| | | ③ 啓蒙主義 | ④ 人文主義 |

- | | | | |
|----|---|----------|---------|
| 23 | { | ① トマス・モア | ② エラスムス |
| | | ③ グロティウス | ④ ウィクリフ |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	22	④	2
第 4 問	問 1	23	②	2

2010 年追試

問 1 文章中の 23 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つ選べ。

芸術は、ルネサンス以来、他人から学ぶことができる職人的な技術から区別され、独創的な「天才」に基づくものと捉えられるようになった。このような天才は、自然が人間に与えた天賦の才能であり、ここでは、自然の生産力が芸術創作の源とみなされている。既存の作品や規則に ^{とら} 囚われることなく、23 を自由に働かせる芸術家の独創性とは、自然自体が有する生産力の現れであった。

- 23 { ① 概念を把握する悟性 ② 感覚を受容する感性
 ③ 心象を形成する想像力 ④ 行為を遂行する意志

問 7 ルネサンスの時代に活躍した人物の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① ボッカチオは、『デカメロン』において、聖俗を問わず、当時のほぼすべての階級・職業の人々が、人間的な欲望に動かされながら生きる姿を大胆かつ滑稽こっけいに描き出した。
- ② マキャヴェリは、『君主論』において、君主は、偉大さと悲惨さとの間を揺れ動く中間的存在である人間の自主性を尊重しつつ、統治しなければならぬと主張した。
- ③ ミケランジェロは、『最後の審判』において、裏切りによる死を予告する劇的な瞬間のキリストと弟子たちの姿を、写實的ながら全体の調和を失うことなく表現した。
- ④ エラスムスは、『愚神礼讃(痴愚神礼讃)』において、私有財産制度のない理想的な平等社会における人々の生活ぶりを具体的に示し、反語的(アイロニカル)に当時の社会を批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問1	23	③	2
第4問	問7	29	①	2

2009 年 追試

問 1 文章中の 22 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。 22

人間の尊厳についての近代的な観念は、ルネサンス期に登場した。それは、ルネサンス期の人間の理想的な姿を表す 22 という言葉にはっきりとみて取れるように、とりわけ自らのうちにある無限の力と可能性に対する自信を表明している。

- ① 遊戯人 ② 万能人 ③ 宗教人 ④ 英知人

問 2 人間の尊厳を自由意志の観点から説いた思想家としてピコ・デラ・ミランドラが挙げられる。次の文章は、神の言葉を借りてピコが自らの思想を述べたものである。これを読んで、ピコの考えを説明した記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

アダムよ、……私は、おまえを天上的なものとしても、地上的なものとしても、死すべきものとしても、不死なるものとしても造らなかったが、それは、おまえ自身が、いわば「自由意志を ^{そな} 具えた名誉ある造形者」として、おまえの選び取る形をおまえ自身が造り出すようにするためである。おまえは、下位のものどもである獣へと退化することも、また決心しだいでは、上位のものどもである神的なものへと生まれ変わることもできるだろう。

(ピコ・デラ・ミランドラ『人間の尊厳について』)

- ① 人間の尊厳は、人間がおかれた宇宙のなかでの位置によって決定されており、人間が被造物として神の栄光に奉仕することによって示される。
- ② 人間の尊厳は、自由意志によって、宇宙のなかでの位置を決定できることにあり、どのような生き方を選び取るかは人間の決断にかかっている。
- ③ 人間の尊厳は、前世やこの世での善行や罪業に ^{かか} 関わりなく、信仰によって、来世には必ず自らの欲する姿や形で生まれ変われることに存する。

- ④ 人間の尊厳は、自らのおかれた環境を受け入れつつ、より快適な生活様式や社会関係を積極的に創り上げていく姿勢に見いだされる。

問 4 次の記述は、現実の人間の姿や社会を見据えて思想を展開したルネサンス期の思想家についての説明である。□ a □ ・ □ b □に入れるのに最も適当なもの
の組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 □ 26 □

□ a □ は、イタリアの分裂抗争の主な原因を、外国の干渉と国内における人間と社会の腐敗墮落のうちに認めた。このような認識から、政治は宗教や道徳に依拠することなく、現実の社会の状況を直視して行われなくてはならないことを主張した。

□ b □ は、当時のイギリス社会の富の偏在と腐敗の原因を、私有財産制のうちに認めた。そして彼は、人々が自由で平等に暮らせる公平な社会を「どこにもない理想的な国」として描いた。

- ① a マキャヴェリ b ヒューム
② a ペトラルカ b トマス・モア
③ a マキャヴェリ b トマス・モア
④ a ペトラルカ b ヒューム

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	22	②	2
第 4 問	問 2	24	②	3
第 4 問	問 4	26	③	3

2006 年追試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ
選べ。

近代の初頭， において人々は人間性を再発見した。人間性を肯定し自我に
目覚めた人間は，やがて自然に 対峙^{たいじ}しつつ自らの理性を頼って生きるという人間
としての尊厳を自覚するようになった。

- ① デモクラシー ② 産業革命
③ 宗教改革 ④ ルネサンス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	21	④	2

2005 年本試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

マキャヴェリの『 』を見てみよう。マキャヴェリはそこで、 と権力
者に忠告しているが、その背景にそうした自由な人間の登場が予感される。彼は、
いったん自由に目覚めた人間は、いかなる支配も拒否し、権力者にどこまでも抵抗
するものであると指摘している。

- ① 国 家
- ② 政治学
- ③ 君主論
- ④ ユートピア

問 2 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

- ① 権力者に可能なのはつねに民衆の要求に従った政治のみである
- ② 権力者は深い信仰をもち、宗教的権威により支配を正当化すべきである
- ③ 権力者はいかなるときにも厳格に道徳的にふるまわなければならない
- ④ 権力者は権力の維持・強化のためにはいかなる手段も用いるべきである

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	10	③	2
第 2 問	問 2	12	④	3

2003 年本試

問 3 ルネサンスの思想家ピコ・デラ・ミランドラは哲学を通じて現実世界の対立を融和させようとした。彼の主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 宇宙は何も知らない。人間の尊厳のすべては、考えることの中にあるので、人間は努めてよく考えるべきである。
- ② 人間は自由なものとして生まれる。人間の自由は各人のものであり、他人にはその自由を処分する権利はない。
- ③ 人間は、何らかの行いによるのではなく、信仰によって万物から自由であり、すべてのものの上に立つことができる。
- ④ 人間は自分の価値を自ら選ぶことができる名誉ある存在であり、自由意志によって創造的に生きることができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	12	④	2

2003 年 追試

問 1 ルネサンス期の人文主義者たちの中で、カトリック教会の腐敗を批判し、ルターとの論争の中で人間の自由意志を唱えた人物は誰か。次の①～④のうちから一つ選べ。

30

① エラスムス

② トマス・モア

③ カルヴァン

④ ピコ・デラ・ミランドラ

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	30	①	2

2001 年本試

問 1 文中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

大乘仏教をとなえた人々は、自らとの対比で旧来の仏教を小乗と名付け、本来の仏教から離れた偏狭なものと批判した。彼らは菩薩の意義を再解釈して、教えの核心部分に位置づけた。また、中世ヨーロッパ世界の権威に異議をとなえたルネサンスや宗教改革の運動も、ある意味では伝統の原点に立ち戻ることであった。その場合の原点とは、ルネサンスではギリシャ・ローマの古典、宗教改革では聖書である。これらの運動には と呼ばれる思想傾向が共通して存在し、中世的権威からの人間性の解放を促した。

- ① ロマン主義 ② 人文主義 ③ 経験主義 ④ 自然主義

問 3 中世ヨーロッパ世界の権威に異議をとなえたルネサンスや宗教改革の運動に関して、エラスムスについての記述として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 斬新^{ざんしん}な技法による絵画を制作したり、軍事・土木技術や都市計画などに携わったりするとともに、自然学のあらゆる分野にわたって、観察結果やアイデアなどを記した膨大な手稿を残し、「万能人」とたたえられた。
- ② 神によって正しい人間と認められるためには内面的な信仰だけが重要だと主張し、教会の権威による免罪符^{しよくゆうじょう}(贖宥状)を厳しく批判するとともに、一般の人々が聖書を読むことができるようにドイツ語に翻訳した。
- ③ 個々人の救済は神によって予定されており、人が自分の救済を確信するためには神から与えられた自分の職業に禁欲的に励むほかはないと主張して、厳格な規律のもとにキリスト教都市を実現しようとした。
- ④ 思慮のない恩情のゆえに混乱を引き起こす君主に比べれば、残酷さをもって統一と平和を確立する君主のほうがはるかに憐^{あわ}れみ深いと主張するなど、

他国の侵略にさらされているイタリアの分裂状況の克服を訴えた。

- ⑤ 当時用いられたラテン語訳聖書の誤りを正すため、新たに『新約聖書』のギリシャ語原典を校訂・翻訳するとともに、痴愚の女神に託して当時の教会の墮落や神学者の聖書解釈の愚劣さを痛烈に風刺した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	②	2
第 1 問	問 3	4	⑤	3